

日本ベトナム合作映画製作準備委員会・ハノイ訪問（2014年6月）資料

一般社団法人・日本ベトナム経済交流センターが発行する月刊『日本ベトナム経済交流ニュース』から、同センターが製作に企画・協力している日本ベトナム合作映画『ラストライフをベトナムで』（仮題）に関する記事（2014年7月号）を紹介します。

参照 <http://www.j-veec.or.jp/>

当センター副理事長・上田義朗・流科大教授が語る

ベトナムのビジネス新展開

第7回 松坂慶子がベトナム初訪問：日本ベトナム合作映画の記者発表

6月1日から4日までハノイを訪問した。日本とベトナム初の合作映画「ラストライフはベトナムで」（仮題）の「シナハン」と製作発表の記者会見が目的である。そのために主演女優の松坂慶子さん、監督の大森一樹さん、脚本家の北里宇一郎さん、製作の岡田裕さんが同行した。また松坂さんのスタイリストである松田綾子さんも参加された。この訪問では、ベトナム航空日本支社と宿泊先の「さくらホテル」ヤン社長に大変お世話になった。ここに記して感謝を申しあげたい。

なお、「シナハン」とは「シナリオ=ハンティング」の略語。シナリオ作成のための現地見学である。それに加えて今回の訪問は、撮影場所を探すための「ロケハン」（ロケーション=ハンティング）も兼ねていた。非常に過密なスケジュールであったが、その記録を今回は写真で報告する。

大森一樹監督と関西空港からハノイへ

関西空港からハノイには大森さんと私の2人。大森さんのTシャツは映画『ET』のロゴが入っている。これが映画人としての「こだわり」だと納得した。



その後、ハノイで成田空港からの岡田さんと北里さんと合流し、本年に開業したばかりの「さくらホテル」にチェックイン。さっそく市内に「ロケハン」に向かった。

女優・松坂慶子さんベトナム初訪問

先発の大森さん・岡田さん・北里さんが、ベトナムの合作相手先の企画イベント会社ドンドショー社で撮影機材など打ち合わせをしている間、私は松坂慶子さんをノイバイ空港まで迎えに行った。



ロータス投資運用会社のタイン部長(日本語 I R 担当)に依頼して花束を用意してもらった。税関の出口のガラス越しに私が手を振るとすぐに反応して下さった。気さくな方というのが第一印象であったが、何か吸い込まれるような「オーラ」を感じる。なるほど、これが大女優なのだ。写真左は、ベトナムで最も高層ビル「ランドマーク 7 2」での打ち合わせ。撮影現場のハノイ全体を最初に見渡して頂こうという目的である。

夕食会で原作者・小松みゆきさんと初対面

写真左は松坂さんと北里さん。右は大森さんと岡田さん。まさに映画はチームで製作される。それぞれの議論は尽きない。そういったプロの世界の場面である。



この夕食で、原作者の小松みゆきさんと松坂さんが初対面。原作を読まれて、自らの 90 歳を超えるお母様の介護のことを想起され、ぜひ出演したいと言われた松坂さんは、小松さんに会われて、まるで旧友との再会のような様子であった。それほどに原作や台本を何度も読まれて、これまでに役作りをされていたのだと思う。

写真下は、夕食会の記念撮影。また、バイクで帰宅する小松さんを見送る様子である。中央が小松さん。左からドンドショー社のオアイン社長、そしてタム先生(貿易大学前上級講師)である。日本ベトナム経済交流センター顧問でもあるタム先生がオアイン社長を紹介し、この映画の企画は実現に向かって進んだ。ベトナム側と日本側のビジネス交渉での難しい場面の仲介にも尽力して頂いている。タム先生とその「人脈」に感謝である。



日本国大使館・深田特命全権大使を表敬

翌日には、ベトナム側の関係者も同行して、大使公邸で深田特命全権大使を表敬訪問した。深田大使は、関西のご出身であり、もともと気さくなお人柄のように思われたが、松坂さんとの面談となると、さらに気さくに対応して頂いた。



この表敬は、ベトナム側に対して映画製作の強い意志を伝えることを意図しており、それは成功であった。深田大使ご自身が「映画完成に向けて応援します」と明言されたのだから、ベトナム側も本気になったはずだ。日本側の準備が遅延気味であるから、ベトナム側はイライラしたり、映画実現に半信半疑の状態になったりしていたのだ。

日本の文化庁から本年度の外国共同映画製作の助成金が支給され、深田大使から激励を賜った。ここで映画製作に向けた責任は、さらに重大ということになった。



写真上左は、深田大使を中心にした記念撮影。右端の私の白いジャケットは、ハノイ在住の大先輩の鈴木徹也さん（ハイハコトブキ元社長）にお借りした。大使の隣のタットビン監督は、ベトナム側の監督・制作の責任者である。カトリーヌ＝ドヌーブの『インドシナ』製作にも協力しており、国際的な映画にも経験と実績が豊富である。深田大使に向けたベトナム側の代表挨拶は、ベトナム日本の初の合作映画の意義を明確に説明し、さすがにベトナム屈指の大物監督・製作者の雰囲気十分であった。

写真上右は、ハノイのフエ通りの「ブンチャー」名店での昼食である。いわゆる道路沿いのベトナム人向けの十分に清潔とは言えない食堂であるが、松坂さんは何のためらいもなく、「美味しい」と言いながら食事をされた。同店に大学生を連れて行ったことがあるが、最初は当惑するのが通常である。松坂さんは、やっぱり凄い。

映画製作の記者発表を開催

写真左は、小松さんが勤務されている「ベトナムの声」放送局の見学である。世界 20 カ国近い言語でベトナム情報が定期放送されている。小松さんの仕事は、日本語の原稿校閲である。写真右は、ドンドショー社と協力関係にある「若者劇場」(演劇や音楽が舞台公演されるハノイの有名劇場)の会議室での記者発表である。



ベトナム新聞社は 15 社。日本からは共同通信・時事通信・朝日新聞・日本経済新聞・スケッチ編集部などが記者会見に参加した。この記者発表は、ベトナムでは異例。映画の台本の検閲前に製作が発表されたからである。このようなことが可能であった理由は、ドンドショー社やタットビン監督の人脈と信用力の存在である。

記者からの質問も活発であった。ベトナム各紙は 15 社ともに写真入りで大きく報道してくれた(付録参照)。日本ではインターネットで映画製作が報道され、さらに主に共同通信の配信を通して日本各地で新聞報道された。この報道によって、日本とベトナムで初めての合作映画の主演女優が松坂慶子であることが、日本で公表されたことになる。個人的な感想として「もう後には引けない」。

ハノイでホーチミン廟の見学



写真左は、夕闇が深まるハノイの街角で小松さんが「どうぞ、どうぞ」と愛車の後ろに松坂さんを乗せている。記者発表後に訪問したお土産店「スターロータス」前から日本料理店「紀伊」に徒歩 5 分ほどである。スターロータスの店長・佐藤さん、紀伊の店長・小林さんは 2 人とも偶然に日本出張中であつたが、松坂さんが来店すのために急遽帰国。もちろん事前に私は訪問を予約していたが、本当に「本物」の「松坂慶子」が自店に来るなんて、やはり半信半疑

だったのではないだろうか。

写真右は、ホーチミン廟を見学後の記念撮影。今回のハノイ訪問者が全員集合。ハノイの観光地として、そのほかに松坂さんは軍事博物館と女性博物館を見学。もし時間があれば、「水上人形劇」も見て頂きたかった。ただし私は観光地の案内が苦手です十分に説明できなかったことが申し分ない。

ベトナム人俳優のオーディション準備

ベトナム人の俳優は合作映画だから20名以上出演する。そのオーディションの準備として写真下左は、映画に関心のある貿易大学日本語学部の学生5名（前列）に集まってもらった。松坂さんが日本から持参して下さった緑茶ケーキを食べて懇談した。北里さんは脚本改訂のために学生に数々の質問をされた。ベトナム人の若者が何を考えているか。これは脚本の現実性を高める基本情報であろう。

写真下右は、現役のベトナム人の俳優である。彼には内緒であるが、彼は映画出演の可能性が高い。国際的な合作映画となれば、まさに両国の俳優の「演技合戦」という側面も出てくるであろう。両国を代表する俳優さん相互の演技交流や相互理解の機会も合作映画は提供する。このような意義も本映画は存在する。



写真下は、ハノイの俳優の皆さんである。皆さん「普通の人」のように思われるのだが、演技となれば、大変身するのだろうと想像される。写真下右の女優さんは20歳を超えているのだが、「高校生の役はできますか？」と大森監督から質問されていた。



合作映画製作：ハノイ訪問を終えて

今回の訪問は、「シナハン」と「ロケハン」が本来の目的であった。ハノイ中心部から自動車です1時間弱の川向こうのドンアイン地区の広大な敷地の撮影所も視察した。この場所は、ひょっとして「東映大森映画村」や大阪の「USJ」に将来に変貌するかもしれないと思われた。撮影には、現場のロケーションと現場を再現するセットの2種類があるが、その両方の可能性を今回は調査することができた。さらに製作の記者発表では大きな反響があった。特にハノイ

在住の日本人には、映画製作が周知されたように思われた。

写真左は、軍事博物館で松坂さんと松田さん。松田さんはスタイリストとして主に東京で活躍されており、それと同時に松坂さんの信頼できるお友達である。写真右は、おそらくハノイさらにベトナムで最高の味と思われる日本料理店「一味膳」(店主：田村さん)の夕食の一部である。今回の宿泊でお世話になった「さくらホテル」ヤン社長のご招待である。この海老はベトナム産、他は日本から輸入。この店、新しい名所になる価値はある。



原作者の小松さんから「映画化、おめでとうございます」というメールや激励があったと聞いたが、映画製作は始まったばかりである。今回は、あくまでも松坂さんは個人旅行である。いよいよこれから、本格的な脚本の改訂やそのベトナム語翻訳、さらに製作費の本格的な資金調達が始まる。「おめでとう」は、完成試写会の時に初めて口にできる言葉である。企画者として気持ちを引き締めなければならない。そうは言うものの、今回のベトナム訪問によって、日本とベトナム初めての合作映画の製作という「夢」の実現化は着実に前進した。

(流通科学大学教授)

注 7月9日に原作者・小松みゆきさんのお母様が逝去された。それは以下の『朝日新聞』が報道しているとおりである。ご冥福をお祈りするとともに、映画製作の完成を供養としたい。

◆ハノイ(ベトナム) ばあちゃん 異国で天寿

特派員メモ

大正9年生まれの須田ヒロさんは新潟の豪雪地帯で生まれ、そこで一生を終えるはずだった。ところが晩年、認知症(要介護3)を患い、夫に先立たれて身寄りもなくなり、13年前、ベトナム・ハノイで1人で暮らす娘・小松みゆきさん(66)と暮らしはじめた。81歳の認知症の女性が異国で暮らせるのか。周囲は不安がった。でも、ベトナムにはお年寄りを大切にする風土があり、近所の人々は温かく受け入れ、介護に協力してくれた。ヒロさんも「こは雪が降らんでええな」と喜び、体調はむしろ上向いた。海外で明るく、「老老介護」へと突き進む母娘の物語は、「ラストライフをベトナムで」(仮題)という名で映画になることになった。松坂慶子さんの主演で、秋から撮影が始まる予定だ。

ヒロさんは9日、老衰で亡くなった。94歳。穏やかな最期だったという。「ばあちゃん、天寿を全うしたね」。小松さんは涙を浮かべつつ、笑顔で言った。10日、ハノイでの葬儀。棺が火葬場に向かうとき、大粒の天気雨が降り出した。空も泣きながら、ほほえんでいるようだった。(佐々木学)

DANH SÁCH BÀI VIẾT

ST T	
1	http://dantri.com.vn/van-hoa/nhat-lam-phim-de-bay-to-tinh-yeu-voi-viet-nam-883650.htm
2	http://dantri.com.vn/van-hoa/nu-dien-vien-nhat-dong-phim-hop-tac-voi-viet-nam-co-qua-khu-den-883913.htm
3	http://www.daibieunhandan.vn/ONA_BDT/NewsPrint.aspx?newsId=317278
4	http://giaitri.vnexpress.net/tin-tuc/phim/sau-man-anh/nhat-ban-lam-phim-ca-ngoi-cuoc-song-o-ha-noi-2999786.html
5	http://daidoanket.vn/index.aspx?Menu=1420&Style=1&ChiTiet=83025
6	http://baotintuc.vn/van-hoa/nhung-nguoi-nhat-yeu-viet-nam-cuong-nhiet-20140603182449093.htm
7	http://sankhau.com.vn/news/khoi-dong-du-an-phim-hop-tac-nhat-ban-viet-nam-mot-cai-nhin-nhan-van-xuc-dong-ve-viet-nam.aspx
8	http://baocongthuong.com.vn/giai-tri/55740/nhat-lam-phim-de-bay-to-tinh-yeu-voi-viet-nam.htm#.U5Elevl_tvk
9	http://dantri.com.vn/dien-anh/tat-binh-se-day-nu-dien-vien-nhat-di-xe-may-tren-pho-ha-noi-883789.htm
10	http://event.net.vn/tat-binh-se-day-nu-dien-vien-nhat-di-xe-may-tren-pho-ha-noi-202340.htm
11	http://event.net.vn/nhat-lam-phim-de-bay-to-tinh-yeu-voi-viet-nam-202233.htm
12	http://nhanh.net.vn/tin-tuc/nhat-ban-lam-phim-ca-ngoi-cuoc-song-o-ha-noi
13	http://www.baovinhlong.net/van-hoa/nu-dien-vien-nhat-dong-phim-hop-tac-voi-viet-nam-co-qua-khu-den/
14	http://tintuchomnay.net/van-hoa-giai-tri/nu-dien-vien-nhat-dong-phim-hop-tac-voi-viet-nam-co-qua-khu-den.html
15	http://www.baoxaydung.com.vn/news/vn/van-hoa-the-thao/nhat-ban-lam-phim-ca-ngoi-cuoc-song-o-ha-noi.html

携帯に便利!!

開まるウィンドウキャップで
こりをシャットアウト!

開まるので、ペンボ
も、ゴミやほこりを
いつも安心して持ち歩



なるほど!



きれいに貼れる

シートにぴったりの
あわせや貼るとき
のりでのりキレ

他にも
使える

くので、ラッピング
前の口留めなど、
お使いいただけ



ログをご覧下さい。

ちらまで

2-9289



潤滑油は先まで

- ◆ 豊富な商品ラインナップ
- ◆ 安心のアフターサービス
- ◆ 潤滑油による環境改善のご提案

Idemitsu Lube Vietnam Co.,Ltd.

ハノイ支店

Group 54, Dong Anh Town, Dong Anh District, Hanoi
Tel: (04) 3569 0758 / Fax: (04) 3569 0759

担当: 安達 竊崎 (しもざき)

E-mail: japan@idemitsu-liv.vn

ホーチミン支店

Lot MN, Road No. 10, Song Than 1 Industrial Zone,
Di An Town, Binh Duong Province
Tel: (0650) 379 4670 / Fax: (0650) 379 4671

白紙画

ベトナムでの法務相談は、

信頼と実績の K&P Lawyersへ お任せ下さい。

開業はじめ、日系法人様にも広くご利用いただいております。
日本語でご対応いたします。お気軽にお問い合わせください。

- ◆ 紛争処理
- ◆ 事業用地・物件紹介
- ◆ ライセンス申請
- ◆ 規制分野への
進出スキーム構築
- ◆ 法務アドバイザー

K&P Lawyers

日本語デスク: 090 944 9833

メール: jpdesk@kplawyer.net

住所: 2F, The Landmark,

5B Ton Duc Thang St., Dist. 1, HCMC

電話: (08) 3821 6813 FAX: (08) 3821 6013



(上) 製作発表会の様子 (中) 主演の松坂慶子氏 (左下) 大森一樹監督 (右下) 製作の岡田昭氏

認知症になった母親を自身
が働くハノイに迎え、介護し
ながら生活していくという実
話を描いた小松みゆきさんの
著書『越後のBAちゃんベトナム
へ行く』の映画化に伴い、
青年劇場 (Mha Hat Tuoi Tre)
にて製作発表会が行われた。

同映画は、初の日越合作映
画となり、小松みゆきさんを
演じる主演女優の松坂慶子さ
んをはじめ、両国の監督、製
作、企画担当者が顔を連ねた。
日本側は『恋する女たち』
で日本アカデミー賞優秀監
賞などを受賞した大森一樹
さんが監督を務め、『家族

ゲーム』などを手掛けた岡
田裕さんが製作を、上田義
朗さんが企画を担当する。
ベトナム側は、ダン・タット・
ビン (Dang Tat Binh) 監督、
製作はグエン・ティ・ホアイ・
オアイン (Nguyen Thi Hoai
Oanh) さん、企画はグエン・
ティ・タイン・タム (Nguyen
Thi Thanh Tam) さん。
「ベトナムや日本だけでな
く世界の問題となっている
老人問題を扱っており、多
くの方々から共感を得られ
ると思っています。またこ
の映画からは、日本人がベ
トナム人をどう見ているか

『ラストライフをベトナムで』(仮題) 映画製作発表会 主演の松坂慶子さんが来越

SKETCH NEWS/HANOI

2014年6月3日(火)